

# 豊田市 郷土資料館だより

No.105

## 目次

企画展「猪・鹿・カモ!」 ～豊田に棲む3つのシシ達～	2
有害鳥獣駆除の現場では	4
国指定重要文化財 旧鈴木家住宅保存修理現場からの報告② ～文化財建造物を彩る「大津壁」とは!?～	5
令和元年度 特別展準備レポート 神坂峠に見る山への畏怖と畏敬	6
民具調査だより 28 猪口	7
新収蔵資料紹介 昭和の大投手 杉浦忠 関係資料	8



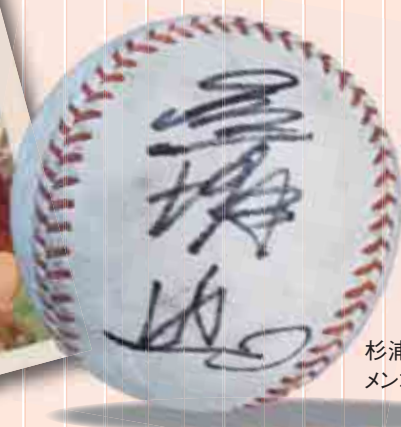
ニホンカモシカ



駆除の様子



万葉集歌碑



杉浦忠がデザインされた  
メンコとサインボール

# 企画展 「猪・鹿・カモ!?!」

## ～豊田に棲む3つのシシたち～



「クルマのまち」として知られる豊田市は、市域の約7割が森林の「緑のまち」でもあります。人と自然の距離が近いことから、身近な場所に多様な生物が生息しており、私たちはその恵みを利用しながら生活してきました。しかしながら、生活様式の変化や開発によって、私たちと自然との関係が変化する中で、動物たちとの関係にも新たな課題が生じています。

今回の企画展では、近年特に話題になることの多い二ホンイノシシ、二ホンジカ、二ホンカモシカの3種類の動物たちを取り上げ、その生態と私たちとの関わりの「今」を紹介します。ここでは、今回の主役たちと豊田市での現在の状況を少しだけ紹介します。

もので、毎年生え変わります。生え変わる前の袋状の状態を鹿茸ろくじょうと呼び、漢方薬の原料として高値で取引されています。

かつては、角や体の成長の早いシカそのものを食べることで、人の衰えを補おうとする「薬食くすりくい」という文化もありました。このように、シカは日本人にとっては生命力の強さを表す動物であったといえます。



二ホンジカ 写真提供：自然観察の森

### 山の主 二ホンイノシシ

二ホンイノシシは、イノシシ科に属する頭胴長100cm以上、体重100kg以上に成長する大型のほ乳類です。大きな体とは裏腹に運動が得意で、走る速度は時速40kmにも及び、ジャンプも得意です。また、嗅覚に優れ、何でも食べる雑食性です。



二ホンイノシシ 写真提供：自然観察の森

日本では、干支の一つとしてお馴染みであるほか、「のたうちまわる」や「猪突猛進」といった言葉は、イノシシの行動や性格をもとにしています。また、私たちの食卓に上がるブタとは分類上同種であり、古くから家畜や狩猟対象として私たちの食を支えてきました。

### 薬とされていた動物 二ホンジカ

奈良公園でお馴染みの二ホンジカは、シカ科のほ乳類です。頭胴長130cm、体重は最大80kg近くにまで成長します。ジャンプ力に優れ、1m以上の柵でも楽々と飛び越えることができます。シカというと白いまだら模様（鹿の子模様）の印象がありますが、冬毛は茶一色になります。また、地域によりヤクシカ、エゾシカなど多数の呼び名がありますが、現在は同種であると考えられています。

日本では、立派な角をもつ雄の姿を見て、神の使いと見る地域もありました。角は皮膚の一部が変化した

### シカではなくウシの仲間 二ホンカモシカ

二ホンカモシカは、名前こそ「シカ」とついていますが、ウシ科に属するほ乳類です。大きさは頭胴長100cm、体重40kgほどになります。シカと異なり、縄張りを作る習性があり、目の下にある眼下腺から出る粘液を木にこすりつけて縄張りをアピールします。

カモシカの「カモ」とは、毛氈もうせんのことで、良質な毛皮がとれることから繊維や防寒着の原料にされていました。このため、乱獲や密猟によって



二ホンカモシカ 写真提供：自然観察の森

て個体数が激減したことから、昭和30年（1955）に特別天然記念物に指定されました。一時は幻の動物であったカモシカですが、1970年代以降には一部の地域を除いて、全国的に個体数が増加し、分布も広がったと考えられています。豊田市内でも個体数の増加が報告されており、黒っぽい体つきからクマと間違えられて通報されることもあるようです。

### 動物たちと私たちの今

それぞれに私たちの生活と関わりをもってきた3種類の動物たち。これらをめぐる豊田市内の現状は、非常に複雑であると言えます。

例えば、豊田市が平成29年度に実施したヒアリング調査の結果によると、農作物への被害額は、二ホン

イノシシによるものが約4,300万円、ニホンジカによるものが約640万円にもものぼります。被害面積はあわせて約28haにもものぼり、これは豊田スタジアム（建築面積）7個分とほぼ同じ面積です。また、広域にわたって農地が荒らされてしまった場合には、農作物が商品にならないばかりか、農地そのものの復旧が難しくなります。このため、獣害によって耕作を諦めてしまうことも多く、その面積は、イノシシとシカの被害によるものだけで約45haにも及びます。農家の方にとって、商品となる農作物が出荷できなくなるということは、生活に関わる重大な問題です。農作物への被害対策は深刻な課題となっています。

ニホンカモシカの場合は、農作物への直接的な被害はそれほど確認されていませんが、防獣ネットや柵に絡まり、設備を破壊してしまう事例が発生しています。このときに、カモシカ自身も負傷や死亡してしまうことも多いようです。また、人に近い場所に出没するケースも増えてきており、交通事故や住宅地で暴れるといった事案も発生しています。増えすぎたカモシカを頭数調整するために捕獲している自治体もあり、豊田市でも今後の対策の進め方が課題となっています。



大給城跡から望む五ヶ丘地区。山の中に住宅地が整備されていることがわかります。

私たちは自然を切り拓きながら生活の拠点を確保してきました。私たちの生活のために整備した住宅地や道路は、実は動物たちの棲み処や通り道であったというケースが数多くあります。人と自然の距離が近い豊田市だからこそ、私たちが住む場所がどんなところなのか、動物たちとどう付き合っていくべきなのかを一人一人が見つめ直す必要があるのかもしれない。

（酒井博嗣）

会期：9月28日(土)～12月1日(日) 見学無料

午前9時～午後5時 休館日：月曜（祝祭日は開館）

### 〈ギャラリートーク〉

①9月29日(日) 午前10時～ ②11月16日(土) 午前10時～

### 〈関連講座〉

「シカの角で本格ペンダントを作ってみよう！」

9月29日(日) ①午後1時30分～ ②午後2時30分～

「親子ジビエ料理体験講座」 10月14日(月・祝) 午前10時～午後0時30分

「こども学芸員教室 観察の森で動物の行動を調査しよう！ 全4回講座」

①11月10日(日) ②12月7日(土) ③令和2年1月11日(土) ④2月1日(土)

※各講座は事前申込制です。詳しくは郷土資料館までお問合せください。



## （仮称）豊田市博物館では豊田の自然も紹介していきます！

庭先にホタルが飛んでいたり、小さな水路に絶滅危惧種がいたり。豊田市には意外な場所での生き物たちとの出会いがたくさん隠れています。令和5年（2023）度中の開館を予定している（仮称）豊田市博物館では、自然も含めた総合博物館として、豊田市ならではの自然の面白さを発信していきます。



## 有害鳥獣駆除の実際

皆さんは、野生動物による農作物被害を低減するために実施されている有害鳥獣駆除をご存じでしょうか。農地の脇に置かれたイノシシ捕獲用の大型のオリを目にすることはあっても、実際の活動内容はあまり知られていないと思いますので、この機会に少しだけご紹介したいと思います。

有害鳥獣駆除を実施しているのは、オレンジ色の帽子がトレードマークの猟友会員です。では、どのような人が猟友会員になっているのかと言えば、驚くべきことに、大部分が、集落の「お役」の延長で担当となった、ごく普通の地域住民です。

私のように、動物の足跡を追って山を馳せ、知恵を絞って罠にかけて、その肉を得ることに喜びを見出している、いわゆるハンターはごくわずか、多くの場合、



捕獲されたイノシシ

自分の農地は自分で守るという義務感から、主にイノシシを駆除するためだけに狩猟免許を取得し、有害鳥獣駆除に従事しています。そのため、私の住む地区では、ほぼ町内会の数だけ猟友会員がいて、その数は、ほとんど変化がありません。

では、実際の駆除活動にふれていきたいと思います。豊田市では、農事組合や自治区から駆除の要望を受けて、その地区の猟友会に有害鳥獣駆除を委託し、イノシシ等の捕獲を許可しています。許可を受けた猟友会員は、オリを設置すると共に、近隣住民などの協力を得ながら、毎日の見回りや餌やりを実施します。イノシシが捕獲されれば、ヤリで刺すなどして駆除し、体長や性別を記録した後、捕獲の証拠として写真を撮影して尻尾を切り取り、その後は穴を掘って埋めますが、それで終わりではありません。捕獲の報告書類をとりまとめ、持ち帰って乾燥させた尻尾と共に市に提出します。

まとめてしまうとこれだけですが、例えば、山の中で1m以上も穴を掘ったり、腐敗して悪臭を放つイノシシの尻尾をカラスや猫から守りながら乾かしたりするのはつらい作業です。また、オリに入ったイノシシ

にとどめを刺す作業は、大変リスクの高い行為です。

体長が1.2mを超えるような大型の個体ともなれば、6ミリはある金属製のメッシュが体当たりでみるみる歪んでいきます。当然イノシシも無傷では済まないた



駆除道具一式

め、無数の返り血を浴びることになりますが、一般的に、野生動物は寄生虫の宝庫です。皮膚に貼り付いて丸々と太ったマダニだけでなく、体内に様々な寄生虫や病気が存在する可能性があり、血液に接触する機会の多い猟友会員は常に人獣共通感染症のリスクにさらされています。

このほか、大型のほ乳類を殺処分する精神的な負担の大きさも見逃されがちです。最近では、空気銃や電気ショックを使用した駆除方法も広まってきましたが、多くの場合、動脈なり心臓なりをヤリで突くことになります。これは、決して気持ちの良いものではありません。食肉として利用することなく、ただ埋めるだけの場合などは尚更です。

このように有害鳥獣駆除には、様々な苦勞がありますが、多くの地域住民がボランティア同然で有害鳥獣駆除を実施しているというのが実情です。

ところが、最近、少し困ったことになってきました。



駆除の様子

イノシシへの豚コレラの感染拡大に伴い、駆除作業に合わせて、ウイルスの拡散を防ぐための防疫措置が必要になってきたのです。その手順は、駆除の現場で実践するにはあまりにも複雑で、駆除活動を見合わせる集落も出てきています。豚コレラ

への対応がいつまで続くかわかりませんが、はたして、今後も有害鳥獣駆除を続けていくことが出来るのか、駆除に携わる一人として危惧しています。

(東加茂猟友会旭支会 弘中陽介)

## ～文化財建造物を彩る「大津壁」とは!?!～

豊田市足助町の重要伝統的建造物群保存地区内にある旧鈴木家住宅は、江戸時代後期から明治期にかけて足助の町で栄えた豪商の町家です。腐朽が進んだ建物の保存修理のため、平成26年度から始まった工事も今年で6年目を迎えています。

文化財建造物の保存修理は、現存する建物の建築当初の建材（古材）を修理して再利用します。腐朽などで機能的に使用できなくなった建材は新しい建材（新材）に交換しますが、その加工は古材の形状や素材などを忠実に再現するよう努めながら復原作業をしています。このように重要文化財の保存修理工事は、大変慎重に解体や調査を行う必要があるのです。

### 旧鈴木家住宅の見どころ「大津壁」とは

旧鈴木家住宅の敷地内には、国の重要文化財に指定された建物が16棟もありますが、そのうち主屋、本座敷、井戸屋形及び釜屋、米置場といった建物は「大津壁」で仕上げられていました。

大津壁とは、色のついた土（色土）に少量の石灰やスサ（壁土のひび割れを防ぐつなぎ材）【写真1】を混ぜ込んで水練りしたものを塗って仕上げられた壁面です。現在、土壁の左官仕上げ工法として一般的によく知られているのは漆喰壁しゅくいですが、当時は漆喰よりも色土の方が入手しやすい身近な材料であったことや、混ぜ込む色土によって紅色や黄色などの多様な色彩表現が可能なおととも、旧鈴木家住宅では、建物の用途ごとに色彩の違う大津壁が採用されていました。しかし近年では、色土の入手が困難になってきている状況にあるようです。

### 大津壁の調査と復原について

大津壁の復原にあたり、まずは壁面の表層から竹小舞たけこまいに至るまで、順に土壁を一層ずつ薄く剥離採取（層出し【写真2】）を行い、層ごとに土の色味や配合素材などを分析・調査します。

また、建設当時の大津壁の色を推察するために、採取する壁土は経年劣化や紫外線などの影響が少ないと考えられる天井際や壁面の隅を採取し、また層の表側ではなく裏側の色味を見て判断します。

その後、採取した壁土をふるいにかけて砂の粒子の大きさやスサの配合割合などの分析を行い、大津壁に

使われた色土の構成要素を特定します。

大津壁に使われる色土は、産地や採取した地層の年代によって色味に違いがあることから、今回の保存修理工事では、入手可能な全国各地の色土を使って調査しながら、オリジナルの色味に近づける復原を目指しています【写真3】。

詳細な調査と緻密な調合の作業を経て、各素材の概ねの配合割合を決めた復原用の大津壁。事前に30cm角の見本板に試し塗りをして色合いを見てから、次に90cm角の見本板に実際の施工手順に近づけて2～3層の試し塗りをを行います。その際、表層の凹凸や乾燥収縮の影響によるひび割れの発生状況などを確認して、砂やスサの量の微調整や金ゴテでおさえる回数などの実際の仕様を確定し、ようやく復原工事に着手できるのです【写真4】。

### インスタ映えする「#色大津」!?

彩りのある大津壁は「色大津」とも呼ばれ、旧鈴木家住宅では、これまでの調査で「白大津」「紅大津」「黄大津」「浅黄大津」「黒大津」の大津壁が確認されています。

彩りあふれる色土の調合サンプルを見ると、築120～260年以上前の建物群ではありますが、現在のSNS時代にも十分通用する見栄えになるのではないかと思います。保存修理の完成を楽しみにしていただいね!

(木原将志・大谷聡子)



【写真1】左: 麻スサ 右: わらスサ

【写真2】壁の層出し



【写真3】色土の調合サンプル

【写真4】大津壁の見本板

# み さか とうげ 神坂峠に見る山への畏怖と畏敬

令和2年1月18日(土)から3月22日(日)まで開催予定の郷土資料館特別展では、「山」と「人々」の関わりについて紹介したいと考えています。山は、時に郷愁や憧憬を、時に畏怖を与え、それを仰ぎ見ながら暮らす人々の心象風景と強く結びついてきた存在です。今回は、特別展でとりあげる神坂峠について紹介します。

## み さか 神坂峠とは

神坂峠は標高1,569mで、東西を現在の岐阜県中津川市と長野県阿智村に、南北を恵那山と神坂山に挟まれ、かつての信濃国と美濃国の国境にあたります。信濃坂とも呼ばれ、美濃から信濃を経て、東国へ至る古東山道の要所でした。また、律令期の官道である東山道も、この峠を越えたと考えられています。峠の道は大変険しく難所として知られ、急峻で距離も長かったため、9世紀後半に記された『万葉集』によれば、神坂峠を挟む美濃側の坂本駅と信濃側の阿知駅の駅家には、駅制で定められたものの中では最も多い30匹の馬が置かれていました。



【写真1】 現在の神坂峠  
(奥は祭祀に関わる遺物が出土した神坂峠遺跡)

## 神坂峠の神話と信仰

神坂峠に関わる史資料はいくつもありますが、特にここでは古い時期の史料を見てみましょう。

『日本書紀』巻第7には、信濃坂に関わって、日本武尊の東征の帰路、日本武尊を苦しめようと山の神が白鹿に変わり、それを日本武尊が蒜で打ち倒した。信濃坂では神気を受けて倒れるものが多かったが、その後山を越える際に蒜を噛んで塗ると神気にあたらなくなったという記事があります。また、『万葉集』巻

20には、天平勝宝7年(755)2月に筑紫に遣わされた防人である埴科郡神人部子忍男の歌として

ちはやぶる神の御坂に幣奉り齋ふ命は母父がため

(神の御坂で供物を奉って命の無事を祈るのは、母と父のためです)

が収められています。

どちらの史料においても、神坂峠は神が存在する場であり、その神は時に人を拒み、遠ざけ、時に祈りを捧げる様子を読み取ることができます。



【写真2】 万葉集歌碑  
(阿智村園原の神坂神社境内に建てられています)

## 神坂峠の祭祀

万葉集の歌では、「幣奉り」と供物を捧げる様子が歌われていますが、神坂峠付近では実際に祭祀を行った跡(神坂峠遺跡として国の史跡に指定)が確認されています。神坂峠の頂上付近で行われた調査では、石製模造品・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器等が多く出土し、これまでに祭祀関係遺物として1,300点程が確認されています。石製模造品は、軟質の岩石などで武器・玉類・鏡・農具などを小型品模造したもので、神坂峠では剣形・刀子形・斧形・鎌形・馬形・勾玉・管玉・棗玉・白玉等が確認されています。量は少なくなるものの、中世までの遺物が出土しています。これらは、神坂峠を越える人々が、峠の神に旅の平安を祈って、「幣」として供えたものと考えられます。

神坂峠を通して、古代以前を中心として山と人との関わりの一例をとりあげてみました。特別展では、他の事例も含めて、更に「山」と「人々」の関わりについて見ていきたいと思えます。

(市澤泰峰)

# 猪口 ちよく・ちよこ



そばちよこ  
蕎麦猪口



こちよく  
『小猪口』箱書墨書に「文政九年丙戌」とあり。  
(文政九年は1826年)

ちよく  
猪口とは、陶磁器で形が小さく上は開き下はすぼんだ酒杯で、盃・杯・坏・蓋等の文字をあてます。元来、本膳料理につく小井で、刺身や酢の物、和え物などの少量の料理を盛りつけるために使われていた小さい器のことを猪口と呼び慣らわしていましたが、江戸時代の中頃から酒器や蕎麦切り用の器として使われ始めました。

わかんさんさいずえ ちよく  
和漢三才図会には、「蓋。和名は佐賀都木、猪口盃〔俗〕形は猪の口に似ている。それでこう名づけるというがよくわからない」とも書かれています。



さしみちよく  
『刺身猪口』 Wφ44 H56 高台φ36



『のぞき猪口』

本来深い形の向付で、料理を覗き見ることからの名。臈なますや造りの煎り酒や割酢を入れる酢入れに使用した。



Wφ47 H50 高台φ40



Wφ81 H50 高台φ49

ねごろ ちよく はこぶた ずつ  
『根来猪口』箱蓋の貼紙に「豆子」とあり。豆子とは、漆塗りの木椀で猪口と壺椀との中間の大きさのもの。僧家で多く用いられる。



『木猪口』



Wφ81 H56 高台φ41



『錦手千代久』猪口を千代口・千代久などとも書く。  
Wφ90 H75 高台φ46

## 盃スマシ井 (盃洗)

はいせん  
神との共飲の器として使われた土器の平盃は、木盃となり今も婚礼での三三九度で三つ重ねの盃が使われています。

江戸時代以降、かんざけ爛酒を盃・猪口で飲む習慣が広まり、酒宴ではひとつの盃をやりとりするというけんしゅう献酬が行われました。献酬では自分の口をつけた盃を洗い清めて他の人にすすめるため盃洗が使われるようになりました。



土器三つ組み盃〈雲土器〉

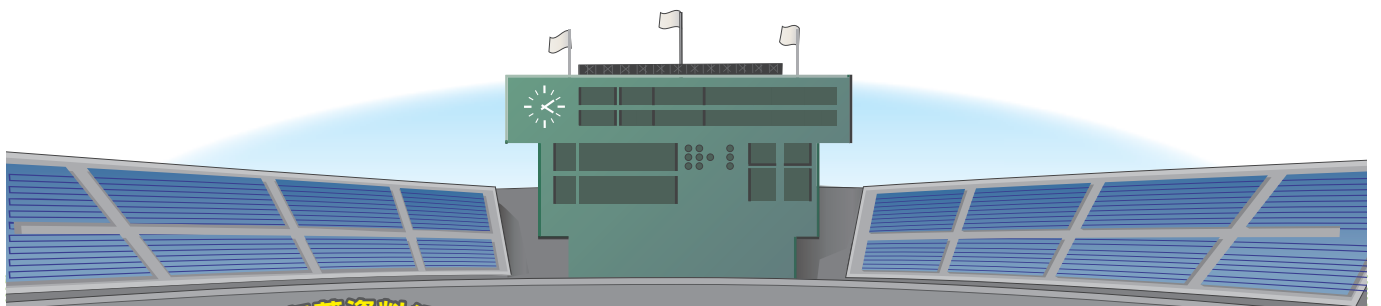


三つ重ね盃と盃台



盃洗と猪口

(東海民具学会 岡本大三郎)



新収蔵資料紹介



# 昭和の大投手 杉浦 忠 関係資料

ただし

ミニ展示「あの熱投から60年—豊田の生んだ大投手・杉浦忠の日本シリーズ」令和元年8月31日～10月27日 開催中

南海ホークスのエースとして活躍した杉浦忠投手は、拳母町（現在の豊田市若宮町）に生まれ、現在の拳母小学校、崇化館中学校、豊田西高等学校で学びました。高校までは無名でしたが、進学した立教大学では長嶋茂雄とともに六大学野球のヒーローとなり、パ・リーグの南海ホークス（現在のソフトバンクホークス）に入団。2年目の昭和34年（1959）には、38勝4敗という驚異的な成績を挙げて南海を優勝に導き、日本シリーズでは巨人を相手に4連投4連勝を成し遂げました。豊田市郷土資料館では、ふるさとの顔ともいべき杉浦忠について紹介するため、平成9年（1997）に特別展「キミは杉浦を見たか～豊田市の生んだ大投手～」を開催するとともに、資料の収集を行っています。

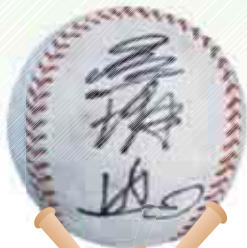
近年では、福岡ダイエーホークス初代監督ユニホームやサインボール、メンコなどを収集しました。メンコには杉浦のほかにも、南海の野村・広瀬、東映の張本、阪急の米田・青田、西鉄の中西、阪神の村山、中日の板東もデザインされています。当時の子どもたちはひいきの選手の活躍を願い、これらのメンコで遊んだのでしょうか。

今年は、杉浦忠が昭和34年の日本シリーズで偉業を成し遂げてから、60年目の節目となります。それを記念して、令和元年8月31日（土）～10月27日（日）の期間に、ミニ展示「あの熱投から60年—豊田の生んだ大投手・杉浦忠の日本シリーズ」を開催しています。本展示は、学芸員を目指す大学生の博物館実習における展示計画・作成の課題として、郷土資料館職員の指導のもと、実習生が展示作業を行いました。ぜひ、足をお運びください。

（山田佳美）



週刊ベースボール  
昭和34年発行  
杉浦忠と長嶋茂雄の対決などについて紹介されている。



サインボール



メンコ

## ■豊田市郷土資料館利用案内■

- 開館時間 午前9時～午後5時
- 休館日 毎週月曜日（祝祭日は開館）
- 入館料 無料（特別展開催中は有料）
- 交通案内 名鉄「梅坪駅」より南へ 徒歩 10分  
名鉄「豊田市駅」より北へ 徒歩 15分  
愛知環状線「新豊田駅」より 徒歩 15分  
とよたおいでんバス「陣中町一丁目」より西へ 徒歩 5分
- 駐車場 約20台

## ●豊田市郷土資料館だより No.105

- 令和元年9月17日発行
- 編集・発行 豊田市郷土資料館
- 〒471-0079 豊田市陣中町1-21-2
- TEL.0565-32-6561 FAX.0565-34-0095
- E-mail ● rekihaku@city.toyota.aichi.jp
- URL ● <http://www.toyota-rekihaku.com>
- FB ● <http://facebook.com/toyotarekihaku>

※豊田市郷土資料館だよりは、HPでもご覧いただけます。